

都市部と農山漁村部との小学校区での「姉妹校区」の取組について(提案)

加藤 博史(龍谷大学)

1. 概要

ここに提案するのは、都市に姉妹都市があり、文化交流等を進めているように、地縁的まとまりのある「小学校区」同士が、「姉妹校区」となって、地域住民同士の交流を深め、多世代の人的往来だけでなく、特産物や伝統文化の交流を続けていく取り組みである。

特に、京都府内には、北部や南部には、過疎化・超高齢化した農山漁村があり、一方で、京都市などの都市部がある。これらを小地域レベルで結びつけることにより、相互に関心の広がりや教育的効果、および各地域の地域力の活性化が相乗的・蓄積的に期待される。

2. 取組内容

- ① 年に1~2回、地域住民が相互訪問を行う。
- ② 特産品の販売を地域の夏祭りなどの機会に行う。
- ③ 貸し農園、貸し山林協定を企画する。
- ④ 子どもたちの合宿企画などを行う。相互のホームステイ協定なども企画する。
- ⑤ 小中学生等が村落の高齢者の生活インタビュー、伝承調査などを行う。
- ⑥ 青年たちが「雪下ろし」などのボランティアを行う。
- ⑦ 青年たちが村落の様子をビデオなどにとり、ホームページなどで情報発信を行う。
- ⑧ 退職後のセカンドライフ設計を考える具体的手立てにしていく。
- ⑨ 災害時に相互救援の拠点になる。

3. 意義

- ① 地域力(地域参加意欲等)と学校教育力を高め、地域と学校の結びつきを豊かにする。
- ② 住民ぐるみの環境問題学習や自然生態系学習の機会となる。
- ③ 過疎問題への関心を高める。子どもたちに過疎問題を体験的に学習してもらう。
- ④ 府内の人たち相互の連帯感と地域の連帯感を相乗的・継続的・蓄積的に高める。

4. 取組の手順

- ① 平成22年度は、モデル的に1~2箇所試行してみて、問題点や課題、効果を調査研究する。
- ② 平成23年度からの公募のあり方や、支援する組織(教育委員会や自治体等)の体制のあり方を整備する。

5. その他

「里・町コミュニティ・フレンズ・プロジェクト(略称 里・町コミフレ)」などの愛称をつける。